



学校給食は今

みんなで一緒に食べるからおいしさも広がって... (天川小学校で)

昭和十三年、前橋市で最初の給食が桃井小学校で開始されました。そのころは、空腹を満たすことが主な目的だったことでしょう。しかし六十五年の歳月が、人の生活様式を変え、食文化をも変えてきました。食事形態は、孤食化・簡略化が進み、嗜好は選択肢が増え、広がりを見せました。そんな目まぐるしい時代の中で、教育現場での給食の持つ意味も様変わりしてきました。そこで今回、わたしたち市民編集委員は、学校給食の現状を西部共同調理場の福田栄養専門員にお聞きしました。

給食の目的

学校給食の目的は、日常生活で食事の正しい理解と望ましい食習慣を養う、学校生活を豊かにし、明るいつまじ性を養う、食生活の合理化、栄養の改善および健康の増進を図る、食糧の生産、配分、消費について正しく理解するの四項目です。そのためには、学校・家庭・

調理場の連携と情報交換が大きな意味を持ちます。

台所は

給食は、市立幼稚園、小・中学校で一日約二万五千五百食、これを五カ所の共同調理場で賄っています(下表のとおり)。煮炊きには、焦げ付かず熱伝導率のいい大きなスチーム釜が使われ、衛生面と時間短縮、さら

献立の決め方

にはおいしさにも一役買っています。野菜類はフードスライサーで切りますが、献立によっては、手作業で何千人分ものジャガイモやサトイモを切ることもあるそうです。

献立案は、文部科学省の基準に沿い、各調理場で二人ずつ、

学校給食調理場別実施状況		
調理場名	対象校 園 数	対象人数
中央共同調理場(上泉町)	12	4,596
東部共同調理場(荒子町)	8	3,497
西部共同調理場(総社町総社)	14	4,773
南部共同調理場(上佐鳥町)	15	6,784
北部共同調理場(青柳町)	12	5,788
計	61	25,398